

# 第13回 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会

— 第12回検討会の主な指摘と対応 —

平成27年2月24日(火)

国土交通省 京浜河川事務所

国土交通省 相模川水系広域ダム管理事務所

神奈川県 県土整備局

神奈川県 企業庁

山梨県 県土整備部

# 置き砂等による農業用取水堰への影響について

置き砂等、河道域で土砂供給量が増加すると、取水施設への影響の他、下流河道の物理環境（瀬・淵分布、水質等）、生物環境（付着藻類、底生動物等）等にも影響を及ぼす懸念があることから、対策の実施にあたってはモニタリングを行う。  
 また、その結果を踏まえ、土砂供給量の増加による影響を軽減・解消できる手法をシミュレーション等により検討する。

## ①モニタリングの実施

置き砂等の実施する際には、モニタリングを行い、取水施設への影響を把握する。

（取水施設への影響を把握するためのモニタリングのイメージ）

- モニタリング時期：置き砂実施前後（出水前後）
- モニタリング箇所：置き砂実施箇所と取水施設の上下流
- モニタリング方法やモニタリング事項：
  - ・取水施設周辺の現地調査やヒアリング
  - ・河床材料調査、水質調査、浮遊砂観測 など

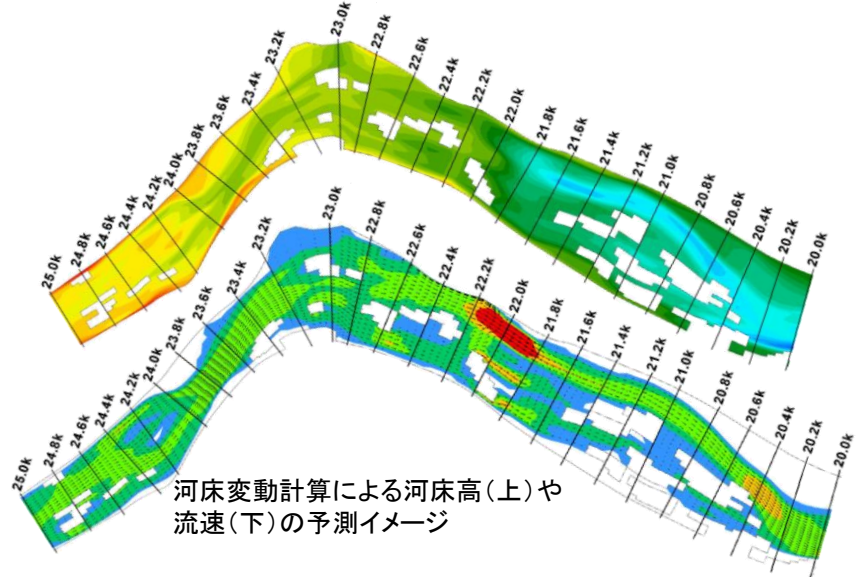
### モニタリングの事例

現在、19.4kで実施している置き砂の試験施工に対し、置き砂設置地点の下流5km程度の重点調査範囲と上流2km程度の比較調査範囲を設定し、付着藻類、底生動物、低水路砂分の移動追跡（線格子法河床材料調査）、置き砂の流量把握（横断測量）、瀬・淵分布、水質の調査を行っている。

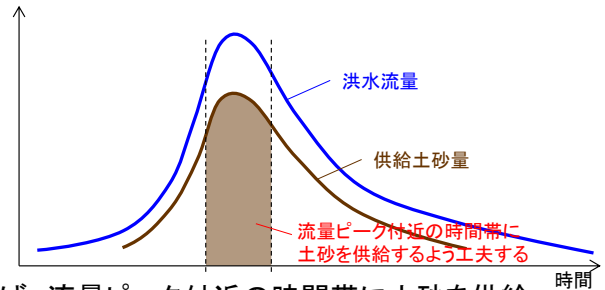


## ②土砂供給量の増加による影響を軽減・解消できる手法の検討

シミュレーション（例えば河床変動計算など）により、置き砂等土砂供給量の増加による土砂の堆積状況や土砂の流下方向等を検証し、影響を軽減・解消できる手法を検討する。



河床変動計算による河床高(上)や流速(下)の予測イメージ

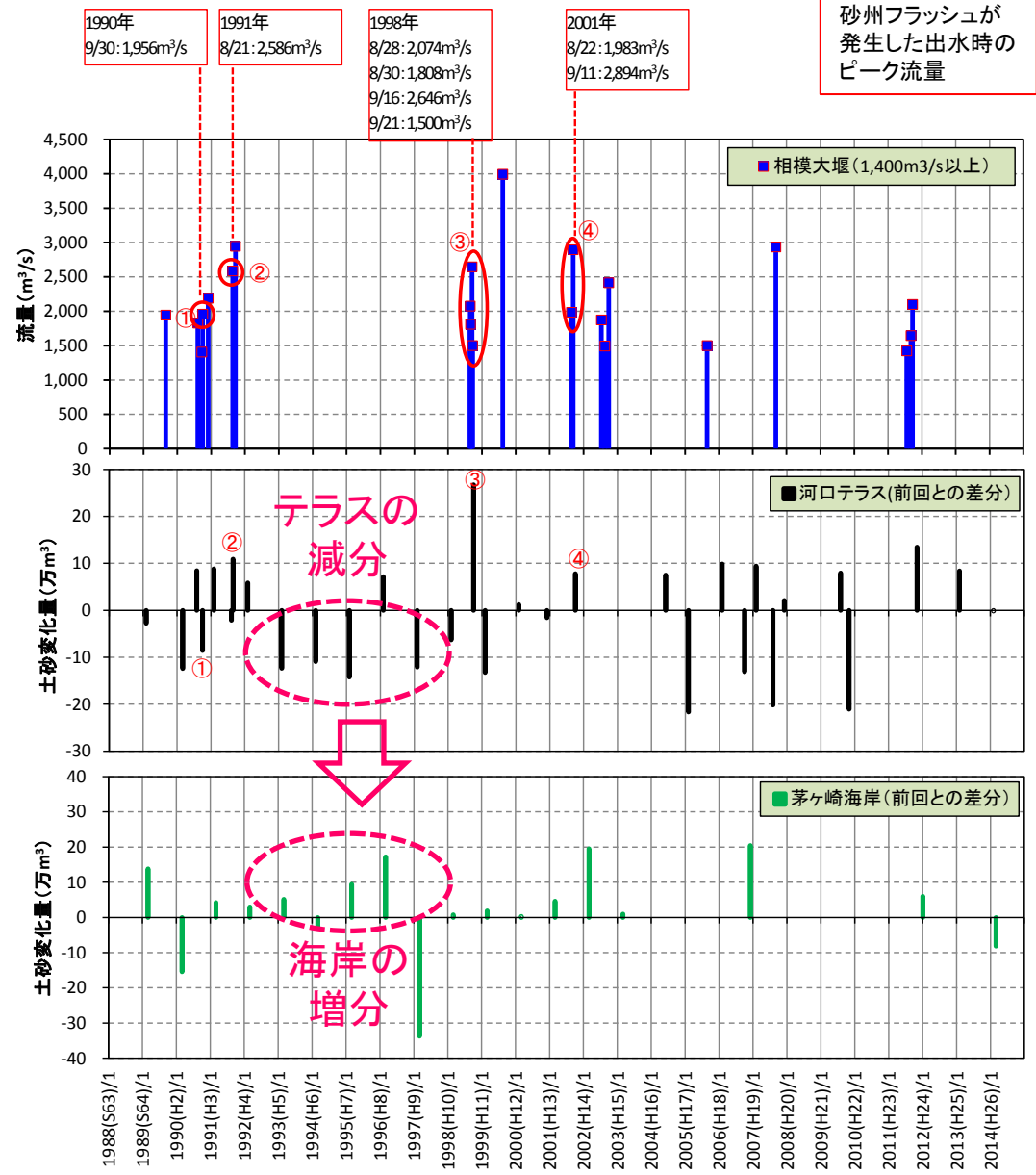


例えば、流量ピーク付近の時間帯に土砂を供給（土砂が流下しやすいタイミングで土砂を供給する）

# 河口テラスの土砂動態について

出水と河口テラス及び茅ヶ崎海岸の土砂変化量を整理した結果、以下のことが確認できた。

- ・ 出水前後においてテラス部の土砂は減少する場合も堆積する場合もある。ただし、テラス部の土砂減少量に比べ、茅ヶ崎海岸の土砂堆積量が大きい場合も見られ、収支の合わない場合が見られた。
- ・ 主要な出水がない時期では、テラス部の土砂が減少し、茅ヶ崎海岸の土砂が増加することが確認された。
- ・ テラス部、茅ヶ崎海岸部ともに土砂が減少する場合、テラス部、茅ヶ崎海岸部ともに土砂が増加する場合もある。



※河口テラス部、茅ヶ崎海岸土砂変化量:それぞれの測量時点に対し、前回との差分土砂量を記載  
流量(相模大堰)、テラス部および茅ヶ崎海岸部の土砂変化量 時系列図